

令和7年12月13日 開催

聴くオフ・ミーティング報告書

テーマ 区とのコラボレーション、はじめの一步を考えよう
～あなたらしい“関わり”のカタチ～

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見を交換する「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。

令和7年12月13日は、「区とのコラボレーション、はじめの一步を考えよう～あなたらしい“関わり”のカタチ～」をテーマに、一般公募と無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた31名の方と話し合いました。

区長から



区長就任以来、「聴くオフ・ミーティング」を始め、「対話の区政」を土台に区民の皆さんと多様な出会いの場、対話の場を作ってまいりました。大変うれしいことに、今回のミーティングは今までで一番多い応募があったと聞き、皆さんとの対話をとても楽しみにしております。区には7つの地域区民センターで活動している協議会をはじめ、たくさんの町会や自治会、商店会があり、地域にはいろいろな人たちの力で形づくられ多様なネットワークがあります。これらのネットワークに参加するのはハードルが高いとか、何か

かできるのではないかという気持ちがあっても、なかなか一步を踏み出せずにいる方々のために、参加の仕組みや手法を整えていくことは区の重要な役割であると考えています。地域のコミュニティの充実は区全体の大きな幸せにつながります。今日は、すでに区で活躍なさっているお二人にお話を伺った後、区との関わりについて皆さんと意見を交換したいと思います。

担当課からの説明



1 なぜ今、「区との関わり」を考えるのか

少子高齢化や共働き世帯の増加、価値観の多様化など、社会環境の変化により、地域の課題はより複雑になっています。区は、行政だけで考え、対応するのではなく、区民の皆さん一人ひとりの視点や経験を生かしながら、共に考えていくことが大切だと考えています。区民の皆さんの強みは、地域のつながりの中で、暮らしに根ざしたニーズを知っていること、そしてそれを実行に移す力がある点です。一方、区の強みは、専門知識や制度を整える力、関係者をつなぎ、調整する力にあります。これら二つの力が重なることで、杉並の暮らしをより良くしていくことができると考えており、そのための環境や仕組みを整えていくことが重要だと捉えています。



2 関わり方に「正解」や「一つの形」はありません

区との関わり方は一つではありません。区の情報を受け取ることや、アンケートに答えるといった身近な関わりから、説明会やワークショップへの参加、意見を伝えること、さらに委員として専門的に関わることまで、関心や関わりの度合いは人それぞれです。また、自宅からインターネットを通じて関われるものもあれば、実際に足を運び、対面でのコミュニケーションを通じて考えを深める場もあります。区は、こうした多様な関わり方そのものを大切に、ライフスタイルや関心の違いを前提に、無理のない形で関われる区政を目指しています。

3 「あなたらしい一步」を見つけましょう

大切なのは、どの関わり方が「正しい」かを選ぶことではなく、自分にとってどんな関わり方ができそうかを考えることです。関心を持つこと、少し情報に触れてみることで、日常の出来事を振り返り、考えを整理してみることも、区との関わりの一歩になります。本日のこの時間が、区政や地域を自分ごととして捉え、自分なりの距離感で関わり続けるきっかけにつながっていただけると嬉しく思います。

パネルトーク

すでに活動しているお三人からお話を聞きました



特定非営利活動法人 Forum2025 代表 戸田 隆夫 さん

ケアキッスアサガヤ 佐藤 睦美 さん

活動について

佐藤さん

落語を通じて地域活動を深めるプロジェクトに挑戦

学生時代から阿佐ヶ谷の魅力に惹かれ、いつか住みたいと思い住んで50年。現在は落語会を主催し、皆さんが集えるたまり場を作り地域交流を深める活動をしています。その他、ジャズストリートのボランティアたちの写真展をはじめ、阿佐ヶ谷の魅力を伝える写真集やそこで働く人たちの笑顔をとらえた写真集を作りました。

戸田さん 子供たちが学びあう場を作る

杉並区に住んで35年、JICA(国際協力機構)に40年近く在籍した経験から、子供たちが国境や言語の壁を越えて、未来の世界に目を向ける「きっかけ」を届けたいと思いNPO法人Forum2050を立ち上げ、この8月にも区内で平和に関するワークショップを開催しました。

区との関わりのきっかけや活動の原動力は？

佐藤さん

阿佐ヶ谷が好きという思いを届けたい。私なりの表現が原動力！
どうやって阿佐ヶ谷が大好きと表現するか。資金や情報など区に相談したのが「きっかけ」です。自分が行動した手応えを感じながら、段々現実味を帯びていく過程は楽しいものです。阿佐ヶ谷ジャズストリートのボランティアや商店街のいつも「いらっしやい」と声かけてくれる方たちの笑顔を届けることが私なりの活動の原動力です。

戸田さん 行政との関わりが大きな力に

区のNPO助成事業への参加が大きな力になりました。1000枚作ったチラシをうまく配布できず、区に相談すると、ネットワークで、区民センターや児童館、図書館など何十ヶ所も一気に配布でき、活動の後押しになりました。その関わりが「きっかけ」で学校とも関係ができ、いろいろな世界が開けました。

区との関わりを具体的に

佐藤さん

まず町会の方や中小企業診断士、近所の方たちに相談。区では企画の公民連携担当で相談に乗ってくださいました。

戸田さん

協働プラザは大きなきっかけ
協働プラザに行った時のやりとりの中で、やりたいことの輪郭がはっきりし、協働プラザや地域課から色々な情報や機会をもらい、しっかり活動ができたと感じました。

後進の方へのアドバイス

佐藤さん

「ガッツ」を持って！区役所は寄り添ってくれる存在！
「ガッツ」ですね！最初の一步を踏み出すのは勇気がいるけどこれに尽きます。また区役所を利用すること。本当に寄り添ってくれ、相談しやすく頼りになります。これがアドバイスです！

戸田さん

「JUST DO IT」で、そして地域のコミュニティも大切に！
私も役所が頼りになると思います。寄り添ってくれるし、必要な情報もくれます。「1人で悩まない」で、思い立ったときに飛び込んでみては？もう一つ、地域の人たちとの繋がりを大切にしてください。杉並のコミュニティには多才な方が多いです。その繋がりがそのものに価値があると思います。



5つのグループに分かれて、意見を出し合いました。



全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。

まね杉並区を良く知る
世代を越えた活動 (数年後)

Think Globally
Act Locally

広い視野で、その地は足元から行動し始めています。

まずは家の近所から安心安全
あるため、活動に参加したい。
区内、区民の働くことのサポート
したい (新しいコトのカタチ)

私は区と保有している
資格やキャリアを生かし、
関わっていきます。

高層の方中心に
足腰・姿勢強化の
サポートで関わってほしい

安心して暮らせる
阿佐ヶ谷を
守りたい。楽しい街

現在、杉並区で民生委員児童委員 国庫開設
しています。現金で預金もしています。区民、
町会、NPOなど連携して活動したいです。
平日午前中、大塚へ徒歩で杉並福祉協議会
とのお針部会です。"用事と区民"
杉並区は最近よく使われるように多摩多
摩止場と入れ替わった"区民"の深い場所です。
グループでは子供の教育についての問題が
話し合えました。最近、多摩多、どうかわか
りませんが、話し合えました。話し合えました。

今ある地域の人との
つながりを大切に
それを少しづつなげ
自身の人間関係の関わりは多い

① まず行動
② 協働・コラボ

AI時代に
問いを立て
ヒトと前に進む力
を若い世代に
届かせたい!!

私は 今回のような抽選と選ばれたら、
お声がけ頂いた時に
率先して関わりたいと思っております!

広報やSNSなどから
情報をキャッチする
自分の得意な活動か
に参加してみよう

私は区と保有している
資格やキャリアを生かし、
関わっていきます。

高層の方中心に
足腰・姿勢強化の
サポートで関わってほしい

① 区民の声を聞き出すこと
② 一人では難しいことと相談して行うこと
(目的が明確で、区民の役に立つこと
を心がけてほしい)

ガイドヘルパーをしてい
目の不自由な方へ
区の情報伝える
橋渡しをしています。

杉並区が「好き」
接点を見つめる
(興味関心、スキル)
(生活)

身近な地域での解決すべき課題は何?
を話し
課題解決の手段や手段の区民への
地域への影響を(町) 節の節の
地域への"good"を(町) 相互活動で
人間関係の"good"を(町) 相互活動で



私は区(町)
*家族と通ってその方の情報を
活用して、...
*自分の心算に乗って生きていく
自分の情報を活かして...
関わっています。

① 子供達のコミュニケーション問題
で何ができないかを
② 杉並の"ゆるさ"を伝え
楽しみ、人に発信する

参加
発信



寄り添

杉並区に
関心を持つ

留学生、観光客など
資料作成
画記
カードなど

イベントに参加して
生活を楽しく過ごす
(自分の情報と共有して)
時間にはゆとりがあったら、企画する
例にまわるといいかな...

難しく考えず
身近なところから

今までは子供を産んだの関わりが
多かったけど今は今日色々な
活動をされている方を交わったので、
そういう場に参加したりと自分の
自分の関わりがしたい。

自分の「経歴」を話す。
→何を具現化
→テーマを絞る
1st Stepを見つけた
→リアルな場
→社会的なつながり

緑と水とコミュニティ
のウェルビーイングな
まちへ。DXを活用し
つながり合うまちへ。

1人暮らしの方
でも安心して生活
できる。区イベントを楽し
める情報発信をした

子供は
やさしく
お年寄り
やさしく

悩みを相談
できる
友達

挨拶から始めよう!
区の情報収集
積極的な企画参加。

地域課からの感想

本日は、多くの方から「区と関わってみたい」「何かやってみようかな」といったご意見をいただき、大変心強く感じました。また、区との関わり方や町会・自治会の活性化などについて、様々なアイデアをいただき、大変参考になりました。区では、すぎなみ地域大学、協働プラザ、NPO支援基金など、様々なメニューを用意して、皆さんの思いや行動を支援していく取組を実施しています。また、町会・自治会や地域区民センター協議会などに参加し、地域や区と関わることもできます。本日、皆さんがこの場に参加したこと自体が区との関わりの中の最初の1歩だと思いますので、きょう感じた思いを胸に、さらにもう1歩踏み出していただいて、皆さんがそれぞれのカタチで区と関わっていただくと大変うれしいです。

公民連携担当からの感想

今回のタイトル「区とのコラボレーション」には、区に関わることをゴールとするのではなく、その先で区と皆さんが力を合わせ、地域やまちを少しずつ良くしていきたいという思いを込めています。公民連携担当として約2年半、地域の皆さんとのコミュニケーションを大切にしながら仕事をしてきましたが、改めて行政の取組は区の職員だけで完結するものではないと感じています。暮らしの現場にある気づきや思いが重なってこそ、区の取組に厚みや広がりが生まれます。仕事や生活でお忙しい中でも、それぞれの関わり方で参加でき、人と人がつながり、次の一歩につながっていく。そうした積み重ねを大事にしながら、これからも皆さんと共にまちづくりを進めていきたいと考えています。

区長の感想

今日は「区とのコラボレーション、はじめの一歩を考えよう」、自分らしい区との関わりについて意見を交換していただきました。すでに地域活動にデビューしているお二人から、区との関わりや活動の原動力をお話いただき「今の区役所は相談相手として頼りになる」など、私たちにとってありがたい言葉をいただきました。それと同時に、参加者の方々も、地域と深く関わっている方やそうでない方、温度差はあるものの、自分自身が主体となって、「区との関わり」について話してくださったことがとてもうれしく心強く感じました。多様な地域課題の解決に行政（区）だけではなく、地域のキーパーソンやグループ、地域コミュニティの理解と協力が欠かせません。思えば、区と区民がどういう接点を作っていくか、ずっと悩みながら職員と一緒に歩いてきた気がします。そういう思いの中で、「すぎなみプラス」や「すぎなみボイス」というプラットフォーム（区と区民をつなぐ役割を担う場）を作ってきました。区と区民を繋ぐには、区民の方が、それぞれのライフステージや関わり方について多様な存在であることを前提に、個人の自由意思で活動でき、自分の意見や表現を否定されない環境が大切だと思っています。今後も、地域の皆さんが、区とより関わりやすい仕組みをつくっていきたいと思います。



令和7年12月13日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

<参加者> 区民31名、区長、公民連携担当課長、地域課長ほか

令和8年1月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111

